

花を野に荒れ

SJSだより



今年もどうぞよろしく
お願い申し上げます

一般医薬品のネット販売禁止

舛添厚労大臣に要望書提出

2009年の月施行予定の改正薬事法施行規則をめぐり、インターネット販売業者から一般医薬品(医師の処方箋なし)に購入できる医薬品(インターネット販売を認めるよう)という主張が出てきている。

ネット業者の要望内容

ネット業者の主張は、消費者への利便性と規制改革だが、現実にはインターネット上で展開されている解説内容の2/3の例をみても現実の被害への理解度が低いことがわかる。

(例1) 新米ママは多忙で、風邪薬を買いに行くとママもない。(特に授乳中は非常に危険)

(例2) 体の不自由な一人暮らし老人が痔の薬を買う。(日常薬この複数ロステロイド入りの座薬の危険性)

(例3) 若いビジネスマンは他人に知られぬよう育毛剤を買いたい。(育毛剤には多様な副作用がある)

被害者・消費者からの要望書

全国薬害被害者団体連絡協議会(薬被害連)を中心に、薬害・副作用被害者の14団体および全国消費者協会連合会、日本消費者連盟など13団体も積極参加。

2008年11月17日 参議院会館会議室において、参加団体



08. 11. 17 於 参議院会館

連名の「一般医薬品のインターネット販売の規制を求める要望書」を舛添 厚労大臣に提出した。「薬被害」花井十五代表世話人から「一般医薬品のインターネット販売の禁止を求めます」と要望の理由を説明。

SJS患者会からも副作用被害者の立場から強く訴え、OSJS発症患者の1割が一般市販薬の被害者である。○初期症状で正確な診断が打ち出せないうちに重症化している。○ネットで簡単に買えるようになり、薬害にはまったく違った対応があるのではないか。

舛添厚労大臣の受け止め方

皆でつと全く逆に利便性を強調する人々もいらつしやる、国会議員でもそれぞれの立場や考え方があります。薬の安全性については、先般SJSの例も詳しく聴取させていただきました。他の意見も聴かせてもらい、しっかりと受け止めて対応していきたい。

【補記】この要望書は、引き続き甘利 明 規制改革担当大臣にも提出され、約一時間と及び熱い話し合いがもたれた。

また、野田 聖子 消費者行政担当大臣にも、医薬品消費者への配慮を要請し、あらためて認識を深めていただいた。

医薬品ネット販売の規制

厚生労働省では、インターネットを含めた通信販売での医薬品販売を、既定路線を変更せずに規制するよう2009年初にも省令改正する方針を決めた。テレビ・新聞などで報道された(12月23・24日)。患者・被害者の安全性重視の意向が汲みとられたものと高く評価されている。

お知らせします

平成二十一年度 SJS患者会総会は

本年6月6日(土) 津田塾ホールです

第三類に限定を確認

2008年11月21日、衆議院厚生労働委員会において、一般医薬品のネット販売の制限に関する厚生省の方針が三井 辨雄議員からの質問への答弁で明確になった（委員会速記録Ⅱ議事速報 参照）。

三井議員からの質問要旨
 ネット販売は、国民の安全性を考慮するならばしっかりと見直し、規制をしていく必要がある。

高井政府参考人の回答

専門家が対面で情報提供を行うことを原則とする今回の改正薬事法では、第三類医薬品（販売する際に、専門家による情報提供が不要）に限定する。違反した場合の罰則はないが、営業停止・許可取消しなどの対象となる。

舛添厚生労働大臣の回答
 利便性ということのために安全性が損なわれてはならない、この精神はきちんとする。改正薬事法を施行するときの省令では、安全確保を第一にきちんとやって生きたい。

一般医薬品による薬害・副作用の実例

三井議員からは、ガスター10、リアップ、SJS症候群、向精神薬などの薬害・副作用被害が詳しく説明され、SJS患者の死亡例も紹介された。

日本経済新聞（2008・11・22）によると、早速、滋養強壮薬をインターネットで購入した30才台の女性が肝障害を発症し、一時入院していたことが、製薬会社からの副作用被害報告書で判明している。

緊急フォーラム

なぜ薬は対面販売されるのか

安全性軽視への警告

2008年12月2日、緊急フォーラム実行委員会主催で、医薬品の「利便性」と「安全性」に関する緊急フォーラムが開催された。

「薬被連」を主体として、法曹関係諸団体、全国消費者団体などにSJS患者会・励ます会も加わって15団体、約500名が「アルカディア市ヶ谷」（千代田区）に集結し満席の盛況だった。



医薬品がいつでもコンビニ・ドラッグストア・インターネットなどで入手できるという「利便性」よりも、「安全性」が最重要ではないかという論点を中心に、5人のパネルによるパネルディスカッションが活発に繰り広げられた。

SJS患者会 湯浅代表もパネラーとして、SJSの実

海兵七六期生の集いで

川島さんの演奏が聴衆を魅了

例を通して医薬品の不適正使用の危険性を警告した。後半、会場からも、ネット販売を危惧する発言が続いた。

平成20年11月11日、「横浜みなとみらい」にある横浜ロイヤルパークホテルで、海軍兵学校第七六期生の同窓生とその家族が五百人以上集まり、全国総会・懇親会が盛大に行われた。

そのイベントとして川島 成道さんを招きヴァイオリンの演奏をお願いしました。その音色に会場は水を

励ます会事務局からの朗報

「SJSだより」が取りもつ縁で 救済申請にこぎつける

2年前にSJSを発症したHさん（当時21才）のお父さん。救済申請があまりにも複雑難解なので申請をあきらめかけていたところ「SJSだより」を親族から紹介され、11月初旬、励ます会事務局に電話で支援要請があった。

早速、患者会 湯浅代表の適確で丁寧なアドバイスと、主治医（昭和大学病院）の積極的なご協力で、先日申請が受理され、一日も早い認定を祈るばかりとなった。

事務局より

打ったように静まりかえり、一曲終わるころに万雷の拍手が場内に割れんばかり。すてきな演奏家が奏でる音楽は、日頃音楽に興味があるなしに拘らず耳を傾けてしまっのうが人情というものでしょうか。川島さんはそれほど魅力ある演奏を聴かせてくれました。

この海軍兵学校の全国総会・懇親会に、川島 成道さんを招くことができたのは「SJS患者を励ます会」の中小路（夫妻の協力による）ところが極めて大きかったと言えます。これが成功裡に終わったのは我々にとって最高の喜びとなりました。



川島さんは、ご存じのように、子供の頃にSJSを患い、ほとんど失明に近いと聞きました。それにも拘らず、ヴァイオリンの名演奏家として日本のみならず世界中で演奏活動を続けておられます。患者会の皆さんもこんな素晴らしい仲間がいることに誇りを持ち、いかは必ず光が射すことを信じて頑張ってください。

政府への陳情・支援など種々の活動も相俟って必ずその願いはむくわれるものと私も信じています。

（海軍兵学校第七六期会 関東申信越支部

事務局長 林 和彦 記）

